

地域福祉論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

久保英樹

授業の概要

講義、グループワークを通じ、多様な地域の問題事例を基に地域福祉の基本的な考え方とその内容について概説する。また、地域住民の生活ニーズ充足にむけての社会資源の活用・調整・開発のための方法について概説する。

到達目標

①地域福祉の基本的考え方について理解する。
②地域住民の自立生活実現にむけての各組織、専門職の役割について理解する。
③地域問題解決における援助方法について理解する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----------------------------|----|----|
| 1 | 地域福祉の歴史とその基本的考え方①(地域福祉の理論) | 1 | |
| 2 | 地域福祉の基本的考え方(地域分析の枠組み) | 2 | |
| 3 | 地域福祉に関連するわが国の諸制度 | 3 | |
| 4 | 地域福祉に関連するわが国の諸制度 | 4 | |
| 5 | 地域福祉に関連する組織(社会福祉法人) | 5 | |
| 6 | 地域福祉に関連する組織(NPO) | 6 | |
| 7 | 地域福祉に関連する組織(社会福祉協議会) | 7 | |
| 8 | 地域福祉に関連する組織(共同募金会) | 8 | |
| 9 | 地域福祉に関連する組織(民生委員・児童委員) | 9 | |
| 10 | コミュニティソーシャルワークの実際① | 10 | |
| 11 | コミュニティソーシャルワークの実際② | 11 | |
| 12 | 社会資源活用、調整、開発の進め方 | 12 | |
| 13 | 事例検討① | 13 | |
| 14 | 事例検討② | 14 | |
| 15 | まとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

授業態度(10点)、確認テスト(10点)、レポート課題(10点)、筆記試験(70点)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|---------------------------|--------------------------------|
| 「よくわかる地域福祉【第5版】」(ミネルヴァ書房) | 「社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法」(中央法規出版) |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会福祉概論、社会の理解Ⅰ、Ⅱ | 社会福祉主事任用資格、介護福祉士資格 |

心理学

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

私たちは、高齢者への道を歩み続けている。介護に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。
緊急に解決すべき課題が生じた場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|--------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション。人は見かけで決まるか | 1 | |
| 2 | 本当の私とはⅠ 自尊感情 | 2 | |
| 3 | 本当の私とはⅡ 感情と健康 | 3 | |
| 4 | 相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション | 4 | |
| 5 | 相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾 | 5 | |
| 6 | もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則 | 6 | |
| 7 | もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展、失恋 | 7 | |
| 8 | みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力 | 8 | |
| 9 | みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力 | 9 | |
| 10 | 見えない情報圧力とはⅠ 消費行動 | 10 | |
| 11 | 見えない情報圧力とはⅡ 群集心理 | 11 | |
| 12 | ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存 | 12 | |
| 13 | ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ | 13 | |
| 14 | 小論文作成 | 14 | |
| 15 | 小論文発表会・意見交流 | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------|---|
| 学習態度(45%) レポート(55%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 随時、資料を配布する。 | 「本当にかかわる心理学」植木理恵著 日本実業出版社 「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| | 社会福祉主事任用資格 |

英語応用

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期》

担当者

谷川 守

授業目的
・ねらい

「英語基礎」継続科目です。文法力に加え英語の語法に慣れ、英文の構成力や読解力、さらには会話力にも応用できる作文力を身につけることができるようにしていきます。

授業の概要

英検3級、さらに準2級程度の力を身につける。

到達目標

学習予定の範囲の単語などをあらかじめ調べておく。出題されている設問の解答準備をしておく。授業後は学習したポイントを繰り返し復習し確認テストなどに備える。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション、英語学習の意義と活用事例 | 1 | |
| 2 | 受動態 | 2 | |
| 3 | 比較 | 3 | |
| 4 | 完了形 | 4 | |
| 5 | 不定詞 | 5 | |
| 6 | 分詞 | 6 | |
| 7 | 前半のまとめと復習 | 7 | |
| 8 | 前半の確認テスト | 8 | |
| 9 | 動名詞 | 9 | |
| 10 | 節 | 10 | |
| 11 | 関係代名詞 | 11 | |
| 12 | 熟語の整理 | 12 | |
| 13 | 会話文とitの用法 | 13 | |
| 14 | 後半のまとめと復習 | 14 | |
| 15 | 後半の確認テスト | 15 | |

成績評価基準及び方法

定期試験(70%),確認テスト(20%),授業態度(10%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--------------------------------|-----------|
| First steps to English grammar | 随時紹介する。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 基礎英語 | なし |

ライフプランニングⅢ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・深町修一・
松永智也・水田哲弥・黒木信吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

進路指導と、各自の個性に応じた専門知識と技術の修得を行う。

到達目標

1年次に身につけた知識や技術をもとに具体的に進路決定のために行動する。

事前事後学習

随時指示する。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション 履修指導及び進路志望調査 | 1 | |
| 2 | 進路指導 全体指導 業種、職種などについて | 2 | |
| 3 | 進路指導 全体指導 就活サイト登録など | 3 | |
| 4 | 進路指導 全体指導 社会人としてのマナーⅠ | 4 | |
| 5 | 進路指導 全体指導 社会人としてのマナーⅡ | 5 | |
| 6 | 進路指導 全体指導 履歴書の書き方Ⅰ | 6 | |
| 7 | 進路指導 全体指導 履歴書の書き方Ⅱ | 7 | |
| 8 | 進路指導 全体指導 卒業生講和 | 8 | |
| 9 | 進路指導 全体指導 就職講和 | 9 | |
| 10 | 進路指導 ゼミ別に進路指導 | 10 | |
| 11 | 基礎学力向上 全体指導 就職模擬試験 | 11 | |
| 12 | 基礎学力向上 全体指導 適性検査 | 12 | |
| 13 | 基礎学力向上 全体指導 小論文指導 | 13 | |
| 14 | 進路指導 全体指導 就職活動状況調査 | 14 | |
| 15 | 進路指導 全体指導 夏季休暇の有効活用 | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|-------------------------------|------------------|
| 学習態度(30%)、課題の消化状況(70%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「自分で動く就職2015年版」一般財団法人雇用開発センター | 随時紹介します。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| ライフプランニングⅣ | なし |

ライフプランニングⅣ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・深町修一・
松永智也・水田哲弥・黒木信吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

進路指導と、各自の個性に応じた専門知識と技術の修得を行う。

到達目標

進路を決定し社会人になるための準備をする。

事前事後学習

随時指示する。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|---------------------------------|
| 1 | | 1 | オリエンテーション 後期オリエンテーション及び進路決定状況調査 |
| 2 | | 2 | 進路指導 ゼミ別に進路指導 |
| 3 | | 3 | 進路指導 ゼミ別に進路指導 |
| 4 | | 4 | 学園祭について ゼミ別に学園祭について話し合い |
| 5 | | 5 | 進路指導 ゼミ別に進路指導 |
| 6 | | 6 | 学園祭準備 ゼミ別に学園祭の準備 |
| 7 | | 7 | 学園祭に対するゼミ学生の反省・評価を発表 |
| 8 | | 8 | 進路指導 ゼミ別に進路指導 |
| 9 | | 9 | 進路指導 ゼミ別に進路指導 |
| 10 | | 10 | 進路指導 ゼミ別に進路指導 |
| 11 | | 11 | 進路指導 全体指導 進路決定状況調査及び未決定者の対応 |
| 12 | | 12 | 進路状況確認と個別指導 |
| 13 | | 13 | 個別指導及び進路決定者には進路先で必要とされる知識の習得 |
| 14 | | 14 | 個別指導及び進路決定者には進路先で必要とされる知識の習得 |
| 15 | | 15 | 進路指導 全体指導 進路決定状況調査及び未決定者の対応 |

成績評価基準及び方法

| | |
|--------------------------------|------------------|
| 学習態度(30%)、課題の消化状況(70%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「自分で動く就職2015年版」 一般財団法人雇用開発センター | 随時紹介します。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| ライフプランニングⅢ | なし |

経済学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

日本経済は長引く不況に陥っており、少子高齢化、デフレ、失業問題、財政危機など様々な問題を抱えている。いかにすればこれらの問題を解決し、日本経済を回復できるのか。このことを考えるためには経済学の知識が必要不可欠である。本講義では、経済学の考え方と基礎的な経済理論を解説していく。「経済とは何か」、「経済が成長するとはどういう事なのか」、「国内にてどのようにお金が循環しているのか」、「政府が行う政策は経済にどのような影響を与えるのか」といった事を、経済理論や各種データを用いながら身の回りの状況に照らし合わせて解説していく。

到達目標

経済の流れや様々な経済政策の効果を理解する。また、様々な経済指標の意味を理解するとともに、経済データをもとに経済状態を判断出来るようになる。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|-------------------|----|----|
| 1 | 経済学とは何か | 16 | |
| 2 | GDP(国内総生産)とは何か | 17 | |
| 3 | 経済循環と三面等価の原則(1) | 18 | |
| 4 | 経済循環と三面等価の原則(2) | 19 | |
| 5 | 経済成長率 | 20 | |
| 6 | 寄与度・寄与率 | 21 | |
| 7 | 名目GDPと実質GDP | 22 | |
| 8 | 物価指数 | 23 | |
| 9 | 消費関数 | 24 | |
| 10 | 生産物市場の均衡と均衡GDP(1) | 25 | |
| 11 | 生産物市場の均衡と均衡GDP(2) | 26 | |
| 12 | インフレギャップとデフレギャップ | 27 | |
| 13 | 乗数理論(1) | 28 | |
| 14 | 乗数理論(2) | 29 | |
| 15 | まとめ | 30 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 学習態度(30%)、定期試験(60%)、レポート課題(10%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 随時資料を配布する。 | 「経済学入門ミクロ&マクロ」、荒井一博、花井敏著、中央経済社 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 経済学II、総合政策論、経済統計 | なし |

経済学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

我々は周囲の人々との色々な関係の中で生活しています。個人の行動は少なからず、周囲の人々の行動に影響を与え、それが社会全体への影響として波及していきます。集団的意思決定メカニズムでは、結果が自分ひとりの行動によって決まるのではなく、相手の行動によっても異なります。このように、複数の主体が相互に依存し合う状況をゲーム理論を用いて簡潔に表現し、理解していきます。また、家計や企業の経済行動を考えるマイクロ経済学の基礎的な部分を、身の回りの状況に照らし合わせながら解説していきます。

到達目標

マイクロ経済学とゲーム理論とはどのようなものか、消費者行動の理論、生産者行動の理論、戦略形ゲーム、展開形ゲームなどを理解する。公務員試験などで出題される問題を解けるようになる。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|-------------|
| 1 | | 1 | マイクロ経済学とは何か |
| 2 | | 2 | 効用理論 |
| 3 | | 3 | 無差別曲線 |
| 4 | | 4 | 消費者均衡点 |
| 5 | | 5 | 費用関数 |
| 6 | | 6 | 生産関数 |
| 7 | | 7 | 供給曲線 |
| 8 | | 8 | ゲーム理論とは何か |
| 9 | | 9 | 戦略形ゲーム |
| 10 | | 10 | ナッシュ均衡 |
| 11 | | 11 | 練習問題 |
| 12 | | 12 | 展開形ゲーム |
| 13 | | 13 | サブゲーム完全均衡 |
| 14 | | 14 | 練習問題 |
| 15 | | 15 | まとめ |

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、定期試験(60%)、レポート課題(10%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|-----------------|------------------------------------|
| 随時資料を配布する。 | 「マイクロ経済学戦略的アプローチ」、梶井厚志、松井彰彦著、日本評論社 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 経済学Ⅰ、総合政策論、経済統計 | なし |

国際経済論

《4単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

鍛冶舎 巧・宇野木広樹

授業の概要

現在、日本は多くの国々と様々な関係を築いている。日本の経済を理解するためには、国際経済を理解する事は必要不可欠である。本講義では、前半部分にて、基本的な国際経済の知識と、日本を取り巻く様々な経済圏について解説をする。後半部分では、様々な国際的な経済問題を解説してゆく。

到達目標

日本と外国・経済圏との繋がりを理解するとともに、国際的経済を理解する為の知識を習得する。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 後期 | 回 | 後期 |
|----|------------------------|----|----------------|
| 1 | 国際経済学の基礎 | 16 | 環境問題と地球温暖化 |
| 2 | 国際経済と日本経済 | 17 | 世界の食糧・エネルギー問題 |
| 3 | 為替レートについて | 18 | 国際経済とネットワーク |
| 4 | 国際通貨ドルと円 | 19 | 世界的所得格差の広がり(1) |
| 5 | 多国籍企業と海外直接投資 | 20 | 世界的所得格差の広がり(2) |
| 6 | 貿易と自由貿易協定 | 21 | 世界的所得格差の広がり(3) |
| 7 | TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)について | 22 | 世界的所得格差の広がり(4) |
| 8 | 東アジア経済(1) | 23 | APEC |
| 9 | 東アジア経済(2) | 24 | ODAと発展途上国経済(1) |
| 10 | 東アジア経済(3) | 25 | ODAと発展途上国経済(2) |
| 11 | アメリカ経済(1) | 26 | 東アジア通貨危機 |
| 12 | アメリカ経済(2) | 27 | サブプライムローン問題 |
| 13 | EUの経済(1) | 28 | 世界金融危機 |
| 14 | EUの経済(2) | 29 | 世界同時不況と日本経済 |
| 15 | BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国) | 30 | まとめ |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 学習態度(30%)、定期試験(60%)、レポート課題(10%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 随時資料を配布する。 | 「21世紀の資本」、トマ・ピケティ著、山形浩生他訳、みすず書房 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済統計 | なし |

総合政策論

《4単位(講義)／経営福祉学科2年前期》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

現在の日本経済は、長期に渡る経済不況、労働状況の悪化、社会保障費の増大、財政赤字の増加、急速に進む少子高齢化など、様々な問題を抱えている。これらの問題はそれぞれが密接な関係を持っており、問題解決のためには幅広い分野の知識が必要である。本講義では、日本経済が抱える問題を明らかにするとともに、その問題に対する解決策を解説する。

到達目標

総合政策の目的と課題を理解し、様々な問題に対する政策を理解する。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 前期 |
|----|----------------------|----|------------------------|
| 1 | 総合政策論とは何か | 16 | 医療保障制度の仕組み(1) |
| 2 | 財政・金融政策の経済分析(1) | 17 | 医療保障制度の仕組み(2) |
| 3 | 財政・金融政策の経済分析(2) | 18 | 国民医療費の動向と医療の経済分析(1) |
| 4 | 財政・金融政策の経済分析(3) | 19 | 国民医療費の動向と医療の経済分析(2) |
| 5 | 財政・金融政策の経済分析(4) | 20 | 労働者に関する社会保障(1) |
| 6 | 成熟化社会における社会保障 | 21 | 労働者に関する社会保障(2) |
| 7 | 少子・高齢化社会の現状と動向 | 22 | 高齢者関係の社会福祉と介護保険(1) |
| 8 | 高齢化と日本経済 | 23 | 高齢者関係の社会福祉と介護保険(2) |
| 9 | 社会保障制度の機能 | 24 | 児童向け・子育て支援関連の社会保障制度(1) |
| 10 | 社会保障の歴史 | 25 | 児童向け・子育て支援関連の社会保障制度(2) |
| 11 | 公的年金の歴史 | 26 | 障害者のための社会保障(1) |
| 12 | 女性就業の社会的分析 | 27 | 障害者のための社会保障(2) |
| 13 | 現行年金制度の概要 | 28 | 低所得者に対する社会保障 |
| 14 | 高齢者世帯の生活実態と公的年金給付の現状 | 29 | 社会福祉と福祉サービスの改革 |
| 15 | 公的年金の経済理論 | 30 | 全体の講義のまとめ |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 学習態度(30%)、定期試験(60%)、レポート課題(10%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 随時資料を配布する。 | 「福祉の総合政策」, 駒村康平著, 創成社 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済統計 | なし |

会計学

《4単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

川井健次

授業の概要

企業の会計はお金の処理から始まり、財務諸表(貸借対照表・損益計算書等)の作成へと続く一連の手続きである。この会計手続きの流れを把握し、財務諸表を作成する力、財務諸表を理解する力を講義を通じて身につけてもらいたい。

到達目標

それぞれの会社において作成される財務諸表の内容を理解できる力を身につける。財政状態を表す貸借対照表・収益力を表わす損益計算書の内容を理解する力である。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を事前によく読んでおくこと。ホワイトボードのに板書したことをノートに取り整理すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 後期 | 回 | 後期 |
|----|--------------------|----|----------------------|
| 1 | 会計の構造① 財務計算の意味 | 16 | 貸借対照表原則②繰延資産の会計処理 I |
| 2 | 会計の構造② 損益計算の意味 | 17 | 貸借対照表原則③繰延資産の会計処理 II |
| 3 | 会計の目的①会計の目的とは？ | 18 | 財務諸表の理解①収益力を見る I |
| 4 | 会計の目的②財務諸表の意味 | 19 | 財務諸表の理解②収益力を見る II |
| 5 | 会計公準 会計公準とは？ | 20 | 財務諸表の理解③資本収益率を見る。 |
| 6 | 一般原則①真实性の原則 | 21 | 財務諸表の理解④金利支払い能力 I |
| 7 | 一般原則②正規の簿記の原則 | 22 | 財務諸表の理解⑤金利支払い能力 II |
| 8 | 一般原則③継続性の原則 | 23 | 財務諸表の理解⑥損益分岐点の理解 I |
| 9 | 一般原則④明瞭性の原則 | 24 | 財務諸表の理解⑦損益分岐点の理解 II |
| 10 | 一般原則⑤単一性の原則 | 25 | 財務諸表の理解のまとめ |
| 11 | 一般原則⑥保守主義の原則 | 26 | 財務諸表の作成①試算表 I |
| 12 | 損益計算書原則①発生主義の原則 | 27 | 財務諸表の作成②試算表 II |
| 13 | 損益計算書原則②実現主義の原則 | 28 | 財務諸表の作成③精算表 I |
| 14 | 損益計算書原則③費用収益対応の原則③ | 29 | 財務諸表の作成④精算表 II |
| 15 | 貸借対照表原則①貸借対照表3原則 | 30 | 財務諸表の作成まとめ |

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|------------------------------|-------------------------|
| 「財務会計論講義第3版」宇南山英夫編著 東京経済情報出版 | 「財務計画の原理」宇南山英夫編著 税務経理協会 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 簿記・簿記演習 | なし |

所得税法

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期》

担当者

鶴濱邦昭

授業の概要

確定申告に必要とされる所得税法の知識を修得する。
すべて国民は納税の義務を負っています。そこで、給与所得者・個人事業者は給与の中から所得税を支払わなければなりません。源泉徴収される給与所得者であっても多額の医療費を支払った場合や住宅ローンで家を購入した場合などには確定申告をすれば税金が還付される場合があります。生活に密着した所得税のしくみを解説します。

到達目標

収入・所得のある人は、すべて所得税を国家に納付しなければならないことになっているので、所得税に関する基本的な事項について理解する。例えば、源泉徴収制度・必要経費・各種所得・所得控除等の意味を把握する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を事前によく読んでおくこと。
ホワイトボードに板書したことをノートに取り整理すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|-----------------------|----|----|
| 1 | 所得税制度のあらまし①所得とは？ | 1 | |
| 2 | 所得税制度のあらまし②課税所得の内容 | 2 | |
| 3 | 所得税制度のあらまし③変動所得・臨時所得 | 3 | |
| 4 | 所得税制度のあらまし④源泉徴収税制度 | 4 | |
| 5 | 所得税制度のあらまし⑤青色申告制度 | 5 | |
| 6 | 所得金額の計算①収入金額の計算Ⅰ | 6 | |
| 7 | 所得金額の計算②収入金額の計算Ⅱ | 7 | |
| 8 | 所得金額の計算③必要経費の計算Ⅰ | 8 | |
| 9 | 所得金額の計算④必要経費の計算Ⅱ | 9 | |
| 10 | 所得金額の計算⑤事業所得金額の計算 | 10 | |
| 11 | 所得金額の計算⑥不動産所得金額の計算 | 11 | |
| 12 | 所得金額の計算⑦給与所得金額の計算 | 12 | |
| 13 | 所得金額の計算⑧退職所得金額の計算 | 13 | |
| 14 | 所得金額の計算⑨配当所得金額の計算 | 14 | |
| 15 | 所得金額の計算⑩一時所得・雑所得金額の計算 | 15 | |

成績評価基準及び方法

| 定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%) | |
|----------------------------------|-----------------|
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「くらしの税金百科」財団法人納税協会 清文社 | 「やさしい所得税」税務経理協会 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 会計学 | なし |

相続税法

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

川井健次

授業の概要

民法に定める相続に関する定めについて解説する。
次に、相続にかかる税に対する理解を深める。たとえば、基礎控除や配偶者控除、また、相続税率を使った税額計算などを理解する。

到達目標

民法に対する理解により、法定相続人の相続分の計算ができるようになること。
相続税額計算の基本的なものができるようになること。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を事前によく読んでおくこと。
ホワイトボードの板書したことをノートに取り、理解不十分な点を確認し、後日質問するよう努めること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|--------------------|
| 1 | | 1 | 相続の意味Ⅰ(法定相続人・遺言) |
| 2 | | 2 | 相続の意味Ⅱ(遺産分割・承認・放棄) |
| 3 | | 3 | 相続の意味Ⅲ(限定承認・相続欠格) |
| 4 | | 4 | 相続税制度Ⅰ(課税対象財産) |
| 5 | | 5 | 相続税制度Ⅱ(課税価格) |
| 6 | | 6 | 相続税制度Ⅲ(法改正) |
| 7 | | 7 | 相続税の計算Ⅰ(基礎控除) |
| 8 | | 8 | 相続税の計算Ⅱ(相続時精算課税制度) |
| 9 | | 9 | 相続税の計算Ⅲ(債務控除) |
| 10 | | 10 | 納付税額の計算Ⅰ(配偶者控除) |
| 11 | | 11 | 納付税額の計算Ⅱ(未成年者控除) |
| 12 | | 12 | 納付税額の計算Ⅲ(障がい者控除) |
| 13 | | 13 | 納付税額の計算Ⅳ(相次相続控除) |
| 14 | | 14 | 財産価値の計算Ⅰ(法定評価) |
| 15 | | 15 | 財産価値の計算Ⅱ(通達によるもの) |

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|------------------------|-----------------|
| 「くらしの税金百科」財団法人納税協会 清文社 | 「やさしい相続税」税務経理協会 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 所得税法 | なし |

e-ビジネス論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期》

担当者

深町修一

授業の概要

eビジネスとは、インターネットが作り出すビジネス環境を利用して、サプライヤーと顧客との間で商品・サービスや情報の取引を行うビジネス形態だが、インターネットの急速な普及により、あらゆる業種において、既存ビジネスモデルに変革をもたらしている。ここでは今後のeビジネスの動向と方向性を検証していく。

到達目標

ビジネスでどのようにコンピュータやインターネットが関わっているのかを理解し、社会にでてからどのような場面でIT機器を導入するかを判断できるような知識を身につける。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に数回レポートを提出してもらう。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|--------------------------------|----|----|
| 1 | e-ビジネス e-ビジネスとは | 1 | |
| 2 | 経営情報システムの変遷 情報システムの歴史 | 2 | |
| 3 | 経営情報システムの変遷 EDPS、MIS、DSS、SIS | 3 | |
| 4 | 経営情報システムの変遷 BPR、IT、BtoB | 4 | |
| 5 | 小売業の情報システム 利益の評価指標、EOS、POS | 5 | |
| 6 | 小売業の情報システム ERモデルとファイルデザイン | 6 | |
| 7 | eビジネスの現状 ECの種類と規模 | 7 | |
| 8 | eビジネスの現状 BtoBの種類、BtoCの消費者動向と運営 | 8 | |
| 9 | eビジネスの現状 ボーダーレス・ビジネス | 9 | |
| 10 | eビジネスの現状 ビジネス社会への影響 | 10 | |
| 11 | eビジネスの現状 ニュービジネスとサービス経済化 | 11 | |
| 12 | eビジネスの現状 ベンチャービジネスとe-ビジネス | 12 | |
| 13 | eビジネスの実際 事例研究(1) | 13 | |
| 14 | eビジネスの実際 事例研究(2) | 14 | |
| 15 | eビジネスの今後 eビジネスの可能性と課題 | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 学習態度(10%)、課題提出(30%) 定期試験(60%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 毎回プリントを配布 | eビジネスの教科書[第五版] 幡鎌博著 創成社 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| | なし |

プログラミング演習I

《2単位(演習)／経営福祉学科2年後期》

担当者

深町修一

授業の概要

プログラミングを通じて、コンピュータの動作を制御する作業手順であるプログラムの設計と作成に必要な知識を学習させ、ソフトウェア開発の流れを理解する。

到達目標

プログラミング言語としてC言語を用いて、初歩的なプログラミング技術を習得する。本講義では、まずプログラミングを行うための問題解決の手順を学ぶ。そして、C言語の文法知識を具体的な例題を通して理解し、それを実際にプログラミングし、実行する形で授業を進行する。

事前事後学習

演習中に作成したプログラムについては必ず復習して、同じ問題が出された時には解けるようになっておくこと。また、課題を出すので、自分で考えてプログラムを作成すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 後期 | 回 | 後期 |
|----|---------------------|----|------------------|
| 1 | 問題解決の手順1(アルゴリズムとは?) | 16 | 多重ループ(for文) |
| 2 | 問題解決の手順2(演習) | 17 | 配列(合計、平均)1 |
| 3 | コンパイル環境、プログラミングの初歩1 | 18 | 配列(合計、平均)2 |
| 4 | コンパイル環境、プログラミングの初歩2 | 19 | 配列(ソート)1 |
| 5 | 変数と式1 | 20 | 配列(ソート)2 |
| 6 | 変数と式2 | 21 | 配列(多次元配列)と2重ループ1 |
| 7 | 計算と出力1 | 22 | 配列(多次元配列)と2重ループ2 |
| 8 | 計算と出力2 | 23 | 関数(変数のスコープ)1 |
| 9 | 条件分岐1(if文)1 | 24 | 関数(変数のスコープ)2 |
| 10 | 条件分岐1(if文)2 | 25 | 関数(引数、返値)1 |
| 11 | 多岐条件文(if文) | 26 | 関数(引数、返値)2 |
| 12 | 多岐条件文(switch文) | 27 | 関数(値渡しと参照渡し)1 |
| 13 | 繰り返し(while文)1 | 28 | 関数(値渡しと参照渡し)2 |
| 14 | 繰り返し(while文)2 | 29 | 総合問題演習1 |
| 15 | 多重ループ | 30 | 総合問題演習2 |

成績評価基準及び方法

| | |
|-------------------------------|---|
| 学習態度(10%)、課題提出(20%)、定期試験(70%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 毎回プリントを配布 | プログラミング言語C第2版 B.Wカーニンハン、D.M.リッチー共著 共立出版株式会社 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| プログラミング演習II | なし |

プログラミング演習II

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期》

担当者

深町修一

授業の概要

Webプログラミングを通して、PHPを習得し、リレーショナルデータベースの概念の理解も進める。また、Webサイトの仕組みやデータベースの利用の仕方を理解する。

到達目標

HTMLやPHPを通して、Webサイトの構築の仕方を習得する。また、リレーショナルデータベースの使い方をマスターする。

事前事後学習

演習中に作成したプログラムについては必ず復習して、同じ問題が出された時には解けるようになっておくこと。また、課題を出すので、自分で考えてプログラムを作成すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 前期 |
|----|-----------------|----|--------------------|
| 1 | 基本的なHTML1 | 16 | PHPの練習2 定数と変数 |
| 2 | 基本的なHTML2 | 17 | PHPの練習3 文字列 |
| 3 | HTML5の機能1 | 18 | PHPの練習4 配列 |
| 4 | HTML5の機能2 | 19 | PHPの練習5 演算子 |
| 5 | JavaScript1 | 20 | PHPの練習6 繰り返し処理 |
| 6 | JavaScript2 | 21 | PHPの練習7 条件分岐 |
| 7 | jQueryとその利用1 | 22 | PHPの練習8 クラスとオブジェクト |
| 8 | jQueryとその利用2 | 23 | PHPの練習9 セッション管理 |
| 9 | Webアプリケーションについて | 24 | PHPの練習10 正規表現 |
| 10 | XAMPP環境設定 | 25 | Smartyの利用1 |
| 11 | MySQLの練習1 | 26 | Smartyの利用2 |
| 12 | MySQLの練習2 | 27 | 総合演習1 |
| 13 | MySQLの練習3 | 28 | 総合演習2 |
| 14 | MySQLの練習4 | 29 | 総合演習3 |
| 15 | PHPの練習1 基本構造 | 30 | 総合演習4 |

成績評価基準及び方法

| | |
|-----------------------|-----------|
| 学習態度(30%)、演習での成果(70%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 毎回プリントを配布 | |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| プログラミング演習 I | なし |

システム設計

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

深町修一

授業の概要

システム開発を行う際に、どのような工程が必要となるかを理解するだけでなく、実際に簡単なシステムを構築するためにはどのようなソフトウェアが必要となるかを体験してもらう。

到達目標

企業等でシステムを導入する場合に必要な知識を身につける。特に、ネットワークを利用したシステムは必須であり、セキュリティーに対する理解も深める。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に数回レポートを提出してもらう。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|-------------------------------|
| 1 | | 1 | 講義のintroduction |
| 2 | | 2 | システム開発工程とシステム開発の手法について |
| 3 | | 3 | 基本的な計画の立て方と戦略的展開について |
| 4 | | 4 | システム開発の準備段階としての要求定義について |
| 5 | | 5 | 要求仕様の確認やコード設計およびデータ設計について |
| 6 | | 6 | アプリケーションの詳細な技術的設計仕様について |
| 7 | | 7 | プログラム開発手順と構造化設計について |
| 8 | | 8 | テストが必要な局面についてと統合テストへのアプローチの仕方 |
| 9 | | 9 | システムの導入と運用管理、品質管理について |
| 10 | | 10 | 開発支援ツールについて |
| 11 | | 11 | 演習1 実例によるシステム開発計画の演習 |
| 12 | | 12 | 演習2 実例による要求定義の演習 |
| 13 | | 13 | 演習3 実例による外部設計の演習 |
| 14 | | 14 | 演習4 開発支援ツールの使い方 |
| 15 | | 15 | まとめ |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------|-----------|
| 最終課題(50%)、学習態度(50%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 毎回プリントを配布 | |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| | なし |

税理事務実習

《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中》

担当者

川井健次

授業の概要

会計処理の実務を実際に体験することにより、会計の専門知識と会計処理能力を身につける。

税理事務実習の目的

- ①会計処理の実際に触れ、将来の職業会計人としての素養を身につける。
- ②基本的な技能を実習先にて実際に応用し、生きた知識を身につける。

到達目標

簿記・会計学・所得税等、会計および税については、講義を通じて学ぶことになっているが、現実の社会における会計実務の流れを体験する。

事前事後学習

実習前指導と実習後の評価表による指導を行う。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|---|---------------------|---|----|
| | ・実習の内容 | | |
| | ①計算実務、②帳簿・伝票の貴重 | | |
| | ③データ入力、④説客・接遇 | | |
| | ⑤文書実務 | | |
| | ・実習の選考基準 | | |
| | ①税務・会計分野に所属するもの | | |
| | ②つぎの科目から3科目以上履修したもの | | |
| | ◆簿記 | | |
| | ◆簿記演習 | | |
| | ◆会計学 | | |
| | ◆所得税法 | | |
| | ◆相続税法 | | |
| | ・実習期間 | | |
| | 8月(12日間) | | |

成績評価基準及び方法

| | |
|-----------------------|-------------|
| 実習評価(70%)、学習態度(30%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| なし | 会計学及び簿記テキスト |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 簿記・簿記演習・会計学・所得税法・相続税法 | なし |

人間関係とコミュニケーション

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者 松永智也(8)・久保英樹(7)

授業の概要

コミュニケーションの基礎、人間関係の形成について概説する。
(授業の目的、ねらい)
介護の実践のために必要な人間の理解や他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。

到達目標

- ・自己覚知、他者理解の意義について説明できる。
- ・対人関係、コミュニケーションの意義と概要について説明できる。
- ・多様なコミュニケーション技法を用い、他者とコミュニケーションを図ることができる。
- ・道具を用いた言語的コミュニケーションについて理解できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|-----------------------------|
| 1 | | 1 | 関係づくりための人間の理解 |
| 2 | | 2 | 自己覚知の意義 |
| 3 | | 3 | 他者理解の意義 |
| 4 | | 4 | 人間関係の形成について理解する。(久保) |
| 5 | | 5 | 発達と人間関係 |
| 6 | | 6 | エコロジカルな視点からみた人間関係 |
| 7 | | 7 | 集団力学からみた人間関係 |
| 8 | | 8 | コミュニケーションとは |
| 9 | | 9 | 対人関係とコミュニケーション |
| 10 | | 10 | コミュニケーションの技法(対人距離) |
| 11 | | 11 | コミュニケーションの技法(言語的コミュニケーション) |
| 12 | | 12 | コミュニケーションの技法(非言語的コミュニケーション) |
| 13 | | 13 | コミュニケーションの技法(受容と共感) |
| 14 | | 14 | コミュニケーションの技法(傾聴技法) |
| 15 | | 15 | 機器を用いたコミュニケーション |

成績評価基準及び方法

| | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解」 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 介護領域を編成する科目 | 介護福祉士資格 |

社会の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

授業の概要

介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度について概説する。
(授業の目的、ねらい)
1. 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護の実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。
2. 介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 介護保険制度の基礎的知識を習得する。
2. 障害者自立支援制度の基礎的知識を習得する。
3. 個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|-----------------------------|----|----|
| 1 | 介護保険制度創設の背景と目的 | 1 | |
| 2 | 介護保険制度のしくみ① | 2 | |
| 3 | 介護保険制度のしくみ② | 3 | |
| 4 | 介護保険制度にかかわる組織と専門職 | 4 | |
| 5 | 介護保険制度の動向 | 5 | |
| 6 | 確認テスト①(介護保険制度) | 6 | |
| 7 | 障害者の自立とその支援制度 | 7 | |
| 8 | 障害者自立支援制度のしくみ① | 8 | |
| 9 | 障害者自立支援制度のしくみ② | 9 | |
| 10 | 障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割 | 10 | |
| 11 | 確認テスト②(障害者自立支援制度) | 11 | |
| 12 | 介護実践に関連する諸制度(人々の権利を保護する諸制度) | 12 | |
| 13 | 保健医療にかかわる諸施策と医療にかかわる法と諸施策 | 13 | |
| 14 | 生活を支える諸制度のあらまし | 14 | |
| 15 | 確認テスト③(介護実践に関連する諸制度) | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|--|------------------|
| 学習態度(20%)、確認テスト(10%)、レポート(10%)、定期試験(60%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第5版)」中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 介護領域を編成する科目 | 介護福祉士資格 |

介護基本Ⅲ

《4単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

松永智也

授業の概要

・介護を必要とする人の理解について概説する。
・介護サービスについて概説する。
・介護実践における連携について概説する。
(授業の目的、ねらい)
「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

- ①介護福祉士とは何かを理解することができる。
- ②介護サービス提供の場を理解することができる。
- ③介護実践における連携を理解することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|---------------------|----|-----------------|
| 1 | 介護サービス | 16 | 多職種連携の意義と目的 |
| 2 | | 17 | |
| 3 | | 18 | |
| 4 | 福祉関係法と介護保険 | 19 | 協働職種の理解と連携のあり方 |
| 5 | | 20 | |
| 6 | 介護サービス提供の場の特性(高齢者) | 21 | 地域連携の定義と目的 |
| 7 | | 22 | |
| 8 | | 23 | |
| 9 | 介護サービス提供の場の特性(障がい者) | 24 | 地域連携にかかるとの機関の理解 |
| 10 | | 25 | |
| 11 | 多様なサービス(介護保険) | 26 | 身近なサービスや機関 |
| 12 | | 27 | |
| 13 | 多様なサービス(障害者自立支援法) | 28 | |
| 14 | | 29 | |
| 15 | | 30 | |
| | 地域福祉計画と介護 | | |

成績評価基準及び方法

| | |
|------------------------------------|---|
| 学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」 中央法規出版 | 「介護福祉士用語辞典」中央法規出版 「新・介護福祉士養成講座 第16巻 資料編」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会の理解 ほか | 介護福祉士資格 |

介護基本Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

皆吉秀太

授業の概要

・介護を必要とする人の理解について概説する。
・介護における安全の確保とリスクマネジメントについて概説する。
・介護従事者の安全について概説する。
・介護従事者の倫理について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習。

到達目標

①介護福祉士の倫理について、「社会福祉士及び介護福祉士法」の規定を下に理解し、介護実践の場でどのように活かせるかについて考察できる。
②生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全対策の重要性について理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|---|
| 1 | | 1 | 利用者主体・自立支援の考え方 利用者主体の実現とノーマライゼーション |
| 2 | | 2 | 介護を必要とする人の理解～人間の多様性・複雑性の理解 生活史、価値観、生活観、生活習慣、就労、雇用、生活様式等の多様性 |
| 3 | | 3 | |
| 4 | | 4 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント 観察、正確な技術、予測・分析 |
| 5 | | 5 | |
| 6 | | 6 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント～事故防止、安全対策 セーフティマネジメント、緊急連絡システム、防火・防災対策、利用者の生活の安全(防犯、消費者被害) |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | 転倒・転落防止、骨折予防(介護予防) |
| 9 | | 9 | |
| 10 | | 10 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント～感染対策 感染予防の意義と介護、感染管理、衛生管理 |
| 11 | | 11 | |
| 12 | | 12 | 感染予防の基礎知識と技術 |
| 13 | | 13 | 介護従事者の安全と介護従事者の倫理～介護従事者の心身の健康管理 心の健康管理(ストレス、燃え尽き症候群) |
| 14 | | 14 | 身体の健康管理(感染予防と対策、腰痛予防と対策) |
| 15 | | 15 | 労働安全、職業倫理 |

成績評価基準及び方法

| | |
|--------------------------------|-------------------|
| 学習態度(40%)、レポート(20%)、定期試験(40%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど | 介護福祉士資格 |

介護基本VI

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

皆吉秀太

授業の概要

・介護を必要とする人の理解について概説する。
・介護における安全の確保とリスクマネジメントについて概説する。
・介護従事者の安全について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

①介護福祉士の倫理に基づいて、「社会福祉士および介護福祉士法」の規定のもとに理解し、実践の場で倫理がどのように活かせるのかについて理解できる。
②生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全対策の重要性について理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|--|
| 1 | | 1 | 利用者主体・自立支援の考え方 |
| 2 | | 2 | 介護を必要とする人の理解～人間の多様性・複雑性の理解 |
| 3 | | 3 | |
| 4 | | 4 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント |
| 5 | | 5 | 観察、正確な技術、予測・分析の実際 |
| 6 | | 6 | セーフティマネジメント、緊急連絡システム、防火・防災対策、利用者の生活の安全(防犯、消費者被害) |
| 7 | | 7 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント～事故防止、安全対策 |
| 8 | | 8 | 転倒・転落防止、骨折予防(介護予防) |
| 9 | | 9 | |
| 10 | | 10 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント～感染対策 |
| 11 | | 11 | 感染予防と感染管理、衛生管理の実際 |
| 12 | | 12 | |
| 13 | | 13 | 自己分析とエゴグラム |
| 14 | | 14 | 介護従事者の安全～介護従事者の心身の健康管理 |
| 15 | | 15 | 心身の健康管理の実際と管理者の役割、職業倫理 |

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポートまたは定期試験(60%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|-------------------------------------|-------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本II」 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど | 介護福祉士資格 |

生活支援技術Ⅵ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

竹原輝子(5)・稲田美和子(10)

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた食事の介護について概説する。
・自立に向けた家事の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。

到達目標

①高齢者や障がい者の家庭生活の基本知識を学ぶ。
②食生活の知識とその援助方法を学習する。
③高齢者や障がい者の支援に応じた食生活が理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|-----------------------------------|
| 1 | | 1 | 家事の意義と目的 |
| 2 | | 2 | |
| 3 | | 3 | 家事に関するアセスメント |
| 4 | | 4 | |
| 5 | | 5 | 生活支援と自立に向けた食事の介護～自立に向けた食生活の介護(稲田) |
| 6 | | 6 | |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | |
| 9 | | 9 | 高齢者・障害者の食生活 |
| 10 | | 10 | |
| 11 | | 11 | 衣類の役割と機能 |
| 12 | | 12 | 生活支援と自立に向けた家事の介護～自立に向けた衣生活の介護(竹原) |
| 13 | | 13 | |
| 14 | | 14 | |
| 15 | | 15 | 高齢者・障害者の被服 |

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポート又は定期試験(60%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|-------------------------------------|-------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会福祉概論、介護基本、障がい理解など | 介護福祉士資格 |

生活支援技術Ⅷ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

山口亮治

授業の概要

・様々な障害に応じた生活支援について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①介護を必要とする方々の様々な状況・状態に応じた生活支援が理解できる。
②利用者の状況・状態に応じた生活支援技術が展開できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | | 前期 | 回 | 後期 |
|----|--------------------------------|-------------|----|----|
| 1 | | 視覚障害者と生活の理解 | 1 | |
| 2 | 生活支援～視覚障害 に応じた介護 | 生活支援と環境整備 | 2 | |
| 3 | | 介護技術の展開 | 3 | |
| 4 | | 介護技術の展開 | 4 | |
| 5 | 生活支援～聴覚・言 語障害に応じた介護 | 聴覚障害について | 5 | |
| 6 | | 聴力検査について | 6 | |
| 7 | | 補聴器について | 7 | |
| 8 | | 聴覚障害の介護技術展開 | 8 | |
| 9 | | 言語障害の介護技術展開 | 9 | |
| 10 | 生活支援～認知症の ある人に応じた生活支 援技術 | 認知症介護の目的 | 10 | |
| 11 | | 認知症介護の原則 | 11 | |
| 12 | | 認知症介護の手段・方法 | 12 | |
| 13 | | 介護技術の展開 | 13 | |
| 14 | | 介護技術の展開 | 14 | |
| 15 | 生活支援の展開 | 介護技術の展開 | 15 | |

成績評価基準及び方法

レポート及び学習態度(80%)、提出物(20%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|---|------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」中央法規出版、「リハビリテーションからみた介護技術」中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| コミュニケーション技術、障がい理解、認知症の理解など | 介護福祉士資格 |

生活支援技術区

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた身じたくの介護を習得する。
・自立に向けた移動の介護を習得する。
・自立に向けた排泄の介護を習得する。
(授業の目的、ねらい)
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解することができる。
- ②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
- ③利用者の状況に応じた介護技術が展開することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 | |
|----|--------------------------------|---------------|----|--|
| 1 | 知的障がい者と生活支援 | 1 | | |
| 2 | 介護技術の展開 | 2 | | |
| 3 | 精神障がい者と生活支援 | 3 | | |
| 4 | 介護技術の展開 | 4 | | |
| 5 | 生活支援・自立に向けた身じたくの介護・自立に向けた移動の介護 | 高次脳機能障害と生活支援 | 5 | |
| 6 | | 介護技術の展開 | 6 | |
| 7 | | 発達障がい者の生活支援 | 7 | |
| 8 | | 介護技術の展開 | 8 | |
| 9 | | 重度心身障がい者の生活支援 | 9 | |
| 10 | | 介護技術の展開 | 10 | |
| 11 | 自立に向けた排泄の介護 | 障害に応じた排泄の介護 | 11 | |
| 12 | | | 12 | |
| 13 | 自立に向けた睡眠の介護 | 介護技術の展開 | 13 | |
| 14 | 介護技術 | 実技テスト | 14 | |
| 15 | | | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|-------------------------------------|-------------------|
| 学習態度およびレポート(50%)、実技試験(50%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| コミュニケーション技術・介護実習 ほか | 介護福祉士資格 |

生活支援技術Ⅻ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

松永智也

授業の概要

・終末期の介護について概説する。
・自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解する。
- ②利用者の状況に応じた介護技術が展開できる。
- ③終末期の介護ができる。
- ④季節レクリエーションが展開できる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|-------------------------|
| 1 | | 1 | 終末期における介護の意義 |
| 2 | | 2 | 終末期の介護～死を迎えるさまざまな状況と介護 |
| 3 | | 3 | 身体的苦痛・精神的苦痛のケア |
| 4 | | 4 | スピリチュアルな苦痛・社会的ケア |
| 5 | | 5 | ターミナルの各期とケア |
| 6 | | 6 | ターミナル期の各職種の役割 |
| 7 | | 7 | 医療を受けている人の例 |
| 8 | | 8 | 医療を受けていない人の例 |
| 9 | | 9 | 高齢者施設の事例 |
| 10 | | 10 | 障害者施設の事例 |
| 11 | | 11 | クリスマス会(高齢者施設訪問) |
| 12 | | 12 | 障害に応じた介護 |
| 13 | | 13 | 死亡時の介護 |
| 14 | | 14 | グリーフケア |
| 15 | | 15 | 終末期の介護～自立に向けた入浴・清潔保持の介護 |

成績評価基準及び方法

| | |
|----------------------------------|-------------------|
| 学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅻ」 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| コミュニケーション技術・介護実習 ほか | 介護福祉士資格 |

介護過程Ⅲ

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

水田 哲弥

授業の概要

・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

到達目標

①介護実習Ⅰbの介護過程の実践を振り返ることができる。
②アセスメントや個別援助計画の実際が理解できる。
③介護実習Ⅰcの介護過程の実践の取り組みができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | | 回 | 前期 | | |
|----|---------------------------------|-----------------------------------|---------------|-------------------------|-----------------|--------------|
| 1 | 介護過程の実践的展開～介護過程の一連の流れを理解する | 生活支援の課題、目標の捉え方 | 16 | 介護過程の実践的展開～介護過程の実際 | 高齢者を理解する | |
| 2 | | | 17 | | ボランティアで利用者を理解する | |
| 3 | 介護過程の実践的展開～利用者の状況・状態に応じた介護過程の実際 | 実習の受け持ち担当者を見つめなおし、介護過程の一連の方法を習得する | 18 | 介護過程の実践的展開～介護実習における介護過程 | フェイスシートの作成 | |
| 4 | | | 19 | | | |
| 5 | | | 20 | | | |
| 6 | | | 21 | | | |
| 7 | 要介護者が利用する各法を理解する | 老人福祉法を理解する | 22 | 個別援助計画書の作成 | | |
| 8 | | | 23 | | | |
| 9 | | | 障害者福祉法を理解する | | 24 | |
| 10 | | | | | 25 | |
| 11 | | | 介護保険を理解する | | 26 | モニタリングの方法 |
| 12 | | | | | 27 | |
| 13 | | | 障害者自立支援法を理解する | | 28 | 施設アセスメントと計画書 |
| 14 | | | | | 29 | |
| 15 | 介護過程の実践的展開～介護過程の実際 | 高齢者を理解する | 30 | | | |

成績評価基準及び方法

出席状況および学習態度(50%)、レポート(50%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 第3版」 中央法規出版 | 「七訂 介護福祉士用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど | 介護福祉士資格 |

介護過程Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

松永智也

授業の概要

・介護過程の実践的展開について概説する。
・介護過程とチームアプローチについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

到達目標

①様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解することができる。
②介護実習Ⅱでの介護過程の実践を振り返ることができる。
③チームアプローチにおける介護福祉士の役割について理解することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|--|
| 1 | | 1 | 介護過程の実践的展開 実習の受け持ち担当者を見つめ直し、モニタリング、アセスメント、計画、実施の一連の方法を習得する |
| 2 | | 2 | |
| 3 | | 3 | |
| 4 | | 4 | |
| 5 | | 5 | |
| 6 | | 6 | |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | 介護過程とチームアプローチ ケースカンファレンスの展開と進行の方法(ロールプレイ) サービス担当者会議での情報提供の方法(ロールプレイ) 介護過程とケアプラン(介護サービス計画) 他の職種との連携 |
| 9 | | 9 | |
| 10 | | 10 | |
| 11 | | 11 | |
| 12 | | 12 | |
| 13 | | 13 | |
| 14 | | 14 | |
| 15 | | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|----------------------------------|--|
| 学習態度および提出物(20%)、レポート(80%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」 中央法規出版 | ・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版 ・改訂第2版「楽しく学ぶ介護過程」介護福祉教育研究会 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| コミュニケーション技術・介護実習 ほか | 介護福祉士資格 |

介護総合演習Ⅲ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

水田哲弥・松永智也・黒木真吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

介護実習Ⅰbのまとめを行うとともに、介護実習Ⅰcへ向けて事例発表の方法、介護技術の確認や自己課題を明確にする。また、自分の将来を考えた職業の選択も考える。

(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。

(授業の目的、ねらい)

・実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記載できる。
- ②実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ③実習先の事業や支援内容を理解できる。
- ④家族・職員とのコミュニケーションの在り方を理解できる。

事前事後学習

随時指示する。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|-------------|----|----|
| 1 | 介護実習Ⅰbの振り返り | 1 | |
| 2 | 介護実習Ⅰb発表会 | 2 | |
| 3 | | 3 | |
| 4 | 介護実習Ⅰc実習準備 | 4 | |
| 5 | | 5 | |
| 6 | | 6 | |
| 7 | 介護実習Ⅰcの振り返り | 7 | |
| 8 | | 8 | |
| 9 | | 9 | |
| 10 | | 10 | |
| 11 | 介護実習Ⅱ実習準備 | 11 | |
| 12 | | 12 | |
| 13 | | 13 | |
| 14 | 介護技術確認テスト | 14 | |
| 15 | | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|---|------------------|
| 学習態度及び実技テスト(80%)、レポート(20%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第2版」中央法規出版・実習のしおり | 「介護福祉用語辞典」中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など | 介護福祉士資格 |

介護総合演習Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

水田哲弥・松永智也・黒木真吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とし、介護実習Ⅱのまとめ・発表を行い、事例発表の方法、介護技術の確認等を行い、2年間の介護実習を統括しまとめる。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
(授業の目的、ねらい)
・実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記載できる。
- ②自己が行う研究に関する準備ができる。(希望者のみ)
- ③実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ④実習先の事業や支援内容を理解できる。
- ⑤介護福祉士としての求められる資質を身につける。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 | |
|----|----|----|--|---------|
| 1 | | 1 | お礼状の作成と提出物の確認 | |
| 2 | | 2 | 介護実習Ⅱのまとめ 報告書の作成① | |
| 3 | | 3 | | 報告書の作成② |
| 4 | | 4 | | 報告書の作成③ |
| 5 | | 5 | 介護実習Ⅱの発表 介護実習Ⅱにて学んだことを発表する | |
| 6 | | 6 | | |
| 7 | | 7 | 介護の日の活動 活動を通じて自己の進路を模索する | |
| 8 | | 8 | 2年間の報告書作成 2年間の実習の振り返り 2年間の実習のまとめ | |
| 9 | | 9 | | |
| 10 | | 10 | | |
| 11 | | 11 | | |
| 12 | | 12 | 介護知識・技術確認テスト 介護知識・技術の確認テスト | |
| 13 | | 13 | | |
| 14 | | 14 | | |
| 15 | | 15 | | |

成績評価基準及び方法

| | |
|---|------------------|
| 学習態度(50%)、レポート(50%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版・実習のしおり | 「介護福祉用語辞典」中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など | 介護福祉士資格 |

介護実習 I c

《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

水田哲弥・松永智也・黒木真吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

老人福祉法に基づく施設や事業所もしくは障害者総合支援法に基づく施設や事業所のうちいずれかの施設で合計12日間の実習を行うものとする。

(授業の目的、ねらい)

・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

到達目標

① 介護実習 I a、I bの体験を踏まえて、介護過程が展開できる(アセスメント・介護計画の作成、実施、評価)。

② さまざまな利用者の生活像、障害像について理解できる。

③ 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。

④ 利用者の個別性を尊重した自立支援の在り方を理解できる。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。

事後学習として実習報告書を作成すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 | | |
|----|---|--|-------------------------------|--|--|
| 1 | ◆期日 2年次:6月～7月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず) | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | ◆実習先 老人福祉法に基づく施設や事業所もしくは障害者総合支援法に基づく施設や事業所 | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | ◆目標【第1週】 | | | |
| 6 | | ① 介護実習 I a、I bの体験を踏まえて、介護過程が展開できる(アセスメント・介護計画の作成)。 | | | |
| 7 | | 介護技術の実践を軸とした介護実習をおこなう。 | | | |
| 8 | | | ② さまざまな利用者の生活像、障害像について理解できる。 | | |
| 9 | | | ③ 受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画を作成する。 | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | ◆目標【第2週】 | | | |
| 12 | | ① 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。 | | | |
| 13 | | ② 利用者の個別性を尊重した自立支援の在り方を理解できる。 | | | |
| 14 | | ③ 受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画に基づく実施、評価といった介護過程の展開を行う。 | | | |
| 15 | | | | | |

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|---|------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版・実習のしおり | 「介護福祉用語辞典」中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など | 介護福祉士資格 |

介護実習Ⅱ

《4単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

水田哲弥・松永智也・黒木真吾・久保英樹・小川亜矢子

授業の概要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。実習は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設で23日間行う。

(授業の目的、ねらい)

・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養い、自立支援の観点から介護実践ができる能力を学ぶ。また、ご利用者やご家族等に対する精神的支援や援助のために実践的なコミュニケーション能力を身につけ、多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程の展開できる能力を養い、ご利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を習得する。

到達目標

- ①受け持ち担当者に対して、アセスメントを行い、短期入所のイメージで個別介護計画を作成、モニタリングを行い、計画の修正を行うといった、一連の介護過程を展開する。
- ②関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
- ③医療と介護の区別や違いを理解する。
- ④地域・家族に向けた支援を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|------------------|---|----|----|
| | ◆期日 2年次:9月～10月(23日間) (土日・祭日・中間指導含まず) | 1 | |
| | | 2 | |
| | ◆実習先 特別養護老人ホームもしくは介護老人保健施設 | 3 | |
| | | 4 | |
| | ◆目標【第1週】 ①施設の概要、機能、役割、1日のスケジュール等を理解する。 ②実習指導者の指導を受け、受け持ち担当者のアセスメントを行う。 | 5 | |
| | | 6 | |
| | | 7 | |
| 高齢者施設の介護現場で実習を行う | | 8 | |
| | ◆目標【第2週～第5週】 ①利用者に提供される日常生活上の介護技術を習得する。 ②日常生活上の不自由を有する人への介護・援助方法を習得する。 ③受け持ち担当者の個別援助計画を立案、実施し、モニタリングの結果、必要であれば計画の見直しを行う。 ④関係職種の役割と連携方法を習得する。 ⑤地域における施設の役割を学び、家族への支援・地域ケアの展 | 9 | |
| | | 10 | |
| | | 11 | |
| | | 12 | |
| | | 13 | |
| | | 14 | |
| | | 15 | |

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)

テキスト

「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版・実習のしおり

参考文献・推薦図書

「介護福祉用語辞典」中央法規出版

関連のある授業科目

社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など

資格等

介護福祉士資格

障がい理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

小川亜矢子

授業の概要

・障害の基礎的理解について概説する。
・障害の医学的側面の基礎的知識について概説する。
(授業の目的、ねらい)
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族も含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

到達目標

①障害の基礎について理解できる。
②障害の医学的側面の基礎的知識を習得できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|--|----|----|
| 1 | 障害の基礎的理解～障害の概念、障害者福祉の基本的理念 | 1 | |
| 2 | 障害の基礎的理解～障害の構造的理解(ICIDHからICF) | 2 | |
| 3 | 障害者の基礎的理解と現状 | 3 | |
| 4 | 障害の医学的側面の基礎的知識(視覚・聴覚・言語障害のある人の生活) | 4 | |
| 5 | 障害の医学的側面の基礎的知識(運動機能障害のある人の生活) | 5 | |
| 6 | 障害の医学的側面の基礎的知識(内部障害、腎機能障害のある人の生活) | 6 | |
| 7 | 障害の医学的側面の基礎的知識(呼吸機能障害、膀胱・直腸障害のある人の生活) | 7 | |
| 8 | 障害の医学的側面の基礎的知識(心臓・血管系疾患のある人の生活) | 8 | |
| 9 | 障害の医学的側面の基礎的知識(免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の生活) | 9 | |
| 10 | 障害の医学的側面の基礎的知識(知的障害、精神障害のある人の生活) | 10 | |
| 11 | 障害の医学的側面の基礎知識(高次脳機能障害・発達障害のある人の生活) | 11 | |
| 12 | 障害の医学的側面の基礎的知識(難病障害のある人の生活) | 12 | |
| 13 | 障害の医学的側面の基礎的知識(重症心身障害のある人の生活) | 13 | |
| 14 | 障害のある人に対する介護の基本的視点 | 14 | |
| 15 | まとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート(20%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|---------------------------------------|------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第13巻 障害の理解」第4版 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 介護実習、介護総合演習 | 介護福祉士資格 |

障がい理解Ⅱ

《1単位(演習)/経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

小川亜矢子

授業の概要

- ・障害の医学的側面の基礎的知識について概説する。
 - ・連携と協働について概説する。
 - ・家族への支援について概説する。
- (授業の目的、ねらい)

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族も含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

到達目標

- ①障害の医学的側面の基礎的知識を習得できる。
- ②連携と協働について理解できる。
- ③家族への支援について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所テキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|---|
| 1 | | 1 | 障害の医学的側面の基礎的知識～視覚障害・聴覚障害(ディスカッション・G)にて理解を深める |
| 2 | | 2 | 障害の医学的側面の基礎的知識～言語障害・ディスカッション・Gにて理解を深める |
| 3 | | 3 | 障害の医学的側面の基礎的知識～肢体不自由(運動機能障害)・ディスカッション・Gにて理解を深める |
| 4 | | 4 | 障害の医学的側面の基礎的知識～呼吸機能障害・ディスカッション・Gにて理解を深める |
| 5 | | 5 | 障害の医学的側面の基礎的知識心臓機能障害・ディスカッション・Gにて理解を深める |
| 6 | | 6 | 障害の医学的側面の基礎的知識～腎機能障害・ディスカッション・Gにて理解を深める |
| 7 | | 7 | 障害の医学的側面の基礎的知識～膀胱・直腸機能障害・ディスカッション・Gにて理解を深める |
| 8 | | 8 | 障害の医学的側面の基礎的知識～疑似体験・聴覚障害・言語障害 |
| 9 | | 9 | 障害の医学的側面の基礎的知識～疑似体験・肢体不自由(運動機能障害) |
| 10 | | 10 | 連携と協働～事例検討(地域におけるサポート体制) |
| 11 | | 11 | 連携と協働～事例検討(チームアプローチ) |
| 12 | | 12 | 連携と協働～基本的視点に基づいた個別支援、社会資源の利用と開発 |
| 13 | | 13 | 家族への支援～家族の状態の把握と介護負担の軽減 |
| 14 | | 14 | 家族への支援～家族のレスパイト |
| 15 | | 15 | まとめ |

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート(20%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|---------------------------------------|-------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第13巻 障害の理解」第4版 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 介護実習、介護総合演習 | 介護福祉士資格 |

からだのしくみⅡ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・入浴に関連したところとからだのしくみについて概説する。
・排泄に関連したところとからだのしくみについて概説する。
・睡眠に関連したところとからだのしくみについて概説する。
(目的、ねらい)
介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的とする。

到達目標

- ①入浴に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ②排泄に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ③睡眠に関連したところとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|--|----|----|
| 1 | 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～入浴・清潔保持のしくみ | 1 | |
| 2 | 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が入浴・清潔時に及ぼす影響 | 2 | |
| 3 | 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①(演習) | 3 | |
| 4 | 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②(演習) | 4 | |
| 5 | 排泄に関連したところとからだのしくみ～排泄のしくみ① | 5 | |
| 6 | 排泄に関連したところとからだのしくみ～排泄のしくみ② | 6 | |
| 7 | 排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響① | 7 | |
| 8 | 排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響② | 8 | |
| 9 | 排泄に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①(演習) | 9 | |
| 10 | 排泄に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②(演習) | 10 | |
| 11 | 睡眠に関連したところとからだのしくみ～睡眠のしくみ① | 11 | |
| 12 | 睡眠に関連したところとからだのしくみ～睡眠のしくみ② | 12 | |
| 13 | 睡眠に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響① | 13 | |
| 14 | 睡眠に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響② | 14 | |
| 15 | 睡眠に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応(観察、連携のポイント)(演習) | 15 | |

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート(20%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--|------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第14巻 ところとからだのしくみ」第3版 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 介護実習、介護総合演習 | 介護福祉士資格 |

からだのしくみⅢ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・死にゆく人のところとからだのしくみについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的とする。

到達目標

①死にゆく人のところとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|--|
| 1 | | 1 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」について—GW— |
| 2 | | 2 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」を理解する(生物学的・法律学的死) |
| 3 | | 3 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」を理解する(臨床的な死) |
| 4 | | 4 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～終末期から「死」までの変化と特徴(身体的機能低下) |
| 5 | | 5 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～終末期から「死」までの変化と特徴(死後の身体的変化) |
| 6 | | 6 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～終末期から「死」までの変化と特徴 |
| 7 | | 7 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」に対するこころの理解(恐怖・不安) |
| 8 | | 8 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」に対するこころの理解(受容する段階) |
| 9 | | 9 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」に対するこころの理解(家族の譲る段階) |
| 10 | | 10 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～施設での看取りについて |
| 11 | | 11 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～医療職との連携のポイント |
| 12 | | 12 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～医療職との連携のポイント |
| 13 | | 13 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～緊急時の対応、応急処置、応急時の対応 |
| 14 | | 14 | 死にゆく人のところとからだのしくみ～緊急時の対応、応急処置、応急時の対応 |
| 15 | | 15 | まとめ |

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート等の提出物(20%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--|-------------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第14巻 こころとからだのしくみ」第3版 中央法規出版 | 「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 介護実習、介護総合演習 | 介護福祉士資格 |

医療的ケア概論Ⅲ

《1単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

小川亜矢子

授業の概要

経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

- ① 経管栄養のしくみについて説明できる。
- ② 安全で適切な経管栄養の手順を説明できる。
- ③ 経管栄養を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|---|---|---|----|
| 1 | 消化器系のしくみとはたらき。消化、呼吸とよくある消化器系の症状 | 1 | |
| 2 | 経管栄養法とは、注入する内容に関する知識。経管栄養実施上の留意点 | 2 | |
| 3 | こどもの経管栄養について。経管栄養に関係する感染と予防。経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 | 3 | |
| 4 | 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認。急変・事後発生時の対応と事前対策 高齢者及び障害者の「経管栄養」の実施手順 | 4 | |
| 5 | 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持。経管栄養の技術と留意点(1) 必要物品の準備と設置利用者の観察 | 5 | |
| 6 | 経管栄養の技術と留意点(2) 経管栄養の実施手順と留意点、経管栄養実施に伴う利用者の身体変化 | 6 | |
| 7 | 経管栄養の技術と留意点(4)片づけ、医療者への報告及び記録 | 7 | |
| 8 | まとめ | 8 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|------------------------------------|------------------|
| 定期試験(60%)、学習態度(20%)、レポート(20%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」第3版 中央法規出版 | 必要に応じて紹介します |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| からだのしくみ | 医療的ケア 基本研修修了 |

医療的ケア演習

《1単位(演習)／経営福祉学科2年集中・介護必修》

担当者

小川亜矢子・篠原淑子

授業の概要

経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

1. 経管栄養や痰の吸引について説明できる。
2. 安全で適切な経管栄養や痰の吸引の手順を説明できる。
3. 経管栄養やたん吸引を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。
4. 緊急時の対応について理解できる。

事前事後学習

配布されているプリントを読み、手順を覚えて演習の準備をする。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------------------|----|----|
| 1 | 経管栄養や痰吸引の手順を復習し、演習を行う。 | 1 | |
| 2 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 2 | |
| 3 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 3 | |
| 4 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 4 | |
| 5 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 5 | |
| 6 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 6 | |
| 7 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 7 | |
| 8 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 8 | |
| 9 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 9 | |
| 10 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 10 | |
| 11 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 11 | |
| 12 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 12 | |
| 13 | 経管栄養や痰の吸引演習 | 13 | |
| 14 | 救急蘇生法演習 | 14 | |
| 15 | まとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

経管栄養法(経鼻経管栄養、胃ろう各5回)、吸引(口腔、鼻腔、気管切開各5回)最終回に実技試験。および救急蘇生法1回実施

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--|--------------|
| 「新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」 第3版 中央法規出版 | 必要に応じて紹介します |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| からだのしくみ | 医療的ケア 基本研修修了 |